

浜岡原子力発電所3号機 定期点検中の制御棒の動作について(続報)

平成 20 年 3 月 28 日

【今回お知らせする内容】

その後の 状況	<p>中止した水張り作業は、その後、完全に閉まっていなかった当該制御棒を挿入側に動かす水の供給配管に設置されている弁(以下、「当該弁」という。)を閉めたうえで再開し、作業は終了しています。</p> <p>その後、当該制御棒および制御棒駆動機構は予備品に取り替えました。</p> <p>なお、これら当該制御棒等を点検した結果、損傷や変形等の異常がないことを確認しました。</p>
対策	<p>今回の事象は、原子炉の中の燃料はすべて取り出された状態で、点検終了に伴う復旧作業の過程で制御棒が挿入されたもので、安全上の問題はありませんが、点検作業の信頼性向上の観点から以下の改善を講じることとしました。</p> <p>今回、水張り作業に伴って制御棒駆動機構の挿入側に水圧がかかり制御棒が挿入された原因は、水張り前の状態確認の際、弁の開閉確認が不十分で、当該弁が完全に閉まっていなかったためです。</p> <p>今後は、弁の開閉状態を確認する際には、ハンドルを実際に操作して表示タグどおりの開閉状態になっていることを確認するようにし、そのことを社内ルールに反映しました。</p>

【2月22日にお知らせした内容】

発生号機	3号機 (定期点検中) : 沸騰水型、定格電気出力110万キロワット
発生年月日	平成20年2月22日
状況	<p>3号機は定期点検中であり、原子炉の中の燃料はすべて取り出され、制御棒はすべて引き抜かれた状態にありました。また、制御棒が動作しないよう制御棒を動作させる際に水を供給する配管の弁を全て閉める措置を講じていました。</p> <p>本日(2月22日)、制御棒を動作させる際に水を供給する配管の水張り作業を実施していたところ、午後1時22分、制御棒が動作したことを示す警報が点灯しました。ただちに中央制御室にある制御棒の状態を示す装置を確認したところ、全制御棒(185本)のうち、1本が挿入側に動き、午後1時26分に全挿入位置となったことを確認しました。</p> <p>原子炉の中の燃料はすべて取り出されており、安全上の問題はありません。</p> <p>ただちに、水張り作業を中止するとともに、現場を確認したところ、当該制御棒を挿入する際に水を供給する配管の弁(以下、「当該弁」という。)が完全に閉まっていなかったことを確認しました。</p> <p>また、他の制御棒の同様な弁については、すべて完全に閉まっていることを確認しました。</p>

